

令和 6 年 3 月 2 1 日
国立研究開発法人 水産研究・教育機構
水産資源研究所
水産資源研究センター長

資源評価ピアレビュー報告書への対応について

令和 4 年度のカタクチイワシ 2 資源（太平洋系群、対馬暖流系群）、マダイ 2 資源（日本海西部・東シナ海系群、瀬戸内海中・西部系群）及びヒラメ 1 資源（瀬戸内海系群）の資源評価について、日米の専門家（Steven Teo 博士、Peter Kuriyama 博士、山川 卓博士）にレビューしていただきました。なお、米国の専門家 2 名には対象 5 資源全て、また山川博士にはカタクチイワシ 2 資源を除く 3 資源の資源評価についてレビューレポートを作成いただきました。

各専門家がレビューレポートを作成される過程において、質問や確認事項にお答えすることを主目的として、令和 5 年 11 月にレビュー会議を開催し、各資源評価担当者との意見交換や議論を行いました。今回の対象 5 資源は令和 2・3 年の対象資源と同じく VPA（仮想個体群解析）を利用しているため、レビュー会議においても、資源構造、基礎的なデータ（年齢別漁獲尾数、資源量指数、資源解析におけるパラメーター等）の質、不確実性の考慮、新たな調査や解析手法の検討など多くの指摘や助言をいただきました。特にマダイとヒラメは栽培種としては初めてレビュー対象としましたので、その特性に関連した議論も行いました。今後の資源評価の高度化に向けて活発かつ有意義な議論が行えたと考えております。

水産資源研究センターでは、各専門家からいただいたご指摘を別紙の対応表にとりまとめ、担当研究者を中心にそれらへの対応方針を示しました。これらの対応方針のもとで、今後 5 年ごとに予定しております資源評価の全体的な見直しに向けて当センターとして検討を続け、既に実施あるいは着手している事項については、毎年の資源評価に順次適用してまいります。時間を要する課題や担当研究者の努力のみによって解決できない事項についても、関係者のご協力を得ながら取り組んでまいりたいと考えております。

以上